

のみを増やしてしまい、学習の時間が減ってきていたのではないかと思われる。授業時間の減少で学力の低下も起こり、学校行事などにも時間的なゆとりがなくなり、学校生活がゆとりのないものになってきている。週五日制や長期休暇の見直しが言われ始めている中で、本県では日南市と高鍋町が今年の夏休みを短くし、二学期の始業をはやめることで、授業時間数を約三十時間増やしている。週五日制は国が決めた事であるが、長期休暇は町で決められる。本町も長期休暇の短縮を取り入れるべきではないか？

答 教育長 総合学習やゆとり教育が学力低下の原因である根拠はない。二学期の始業を変えることは、学習管理規則や教育課程の作り直しなどの手続きが必要である。高鍋町は試行的に実施している事であり、日南市では今年の残暑の中、効率があがらなかつたとの話もある。児湯郡内では、クーラーの設備のある学校では話題になっていくが、本町では生徒の体力、効率から見送っている。今後、要望が出れば検討していかなければならぬが、八月末は適当ではないと思う。

問二 クーラーの設備がないのでできないということとは、教育の機会均等に反するのではないか？残暑の中で登校させても効率があがらないということであるが、カリキュラムの工夫などでできることではないか？現状を変えないか？

答 教育長 学校のおかれている条件はいろいろある。今年度は現状でやっていくしかないが、来年度は課題として受け止め検討したい。

問三 学校図書館研究大会で県内中学生は読書率が全国平均を下回り、不読率も高いと報告されている。町内の学校の夏休み期間中の貸し出し冊数も中学校で〇、四冊、小学校で一、六〜三冊である。本を読む事は学力の向上に大きな影響があり、町立図書館や学校でもいろいろな努力がなされ、本に関心を持たせようとしていく。しかし、子供にとって一番身近な、本のある環境である図書室は、先生が図書担当を兼務されているため、司書の仕事まで手が回らないのが現状ではないか？図書に關してのプロである司書が、子供が行きたくなるような図書室作りを力発揮してほしいが、現在の厳しい財政では専任の司書の配置が難しいことは判る。

答 教育長 十二学級以上の小学校には司書教諭を配置するよう決まっていますが、本町では専任の司書教諭ではなく、先生のなかでお願いしている。県や国には専任の配置を要望しているが難しい。読書については図書主任書などで協議し、町立図書館から、各学校にまとめて本を貸し出したり、読み聞かせなどでとりくんでいる。読書が重要で、魅力ある図書室をつくることも大切である事は同感しているが現実難しい。司書については、今後県や国に要望していくが、今の職員でできる最大限のことはやってみよう。今できることを精一杯やっていくしかない。

問四 平成十三年度に学校評議員制度が設置され、学校運営に意見をいう役割で学校評議員が委嘱されているが、どのような意見がだされ、学校運営に反映されているのか？また、運営だけでなく、教員人事に意見を言う事ができる学校運営協議会が二〇〇四年に制度化されているが本町に取り入れる事はできないか？

答 教育長 学校評議員は、PTAとは違った立場で、地域住民による情報発信としては良い。教育委員会に会議の身身の報告は求めていない。学校内で意見交換をして、参考にしている。学校運営協議会は、地域として学校を運営していくため、教育委員会から地域運営学校を指定された学校の運営を協議する会であり、従来の学校運営の方法を変えるものである。学校を指定するにはその必要性や地域の理解、委員の選定など種々の調査研究が必要。県教委との協議も必要である。しばらく時間が必要。

問四 二 あまりにも価値観が多様化しているため、お互いの軋轢を避けんがために、地域も学校も建前論で子供に接しているように感じられる。子供と真剣に向き合い、親身になるために、学校と親、学校と子供、学校と地域との溝を作らないようにする事が重要。町内の学校に勤務されている先生方で、町内に居住されている方が少ないことも気になる。学校以外での子供や家庭の姿を知る事は大切なことではないか？知識や指導技術も大事だが、コミュニケーション能力も大事。先生次